

新古今和歌集

三
伝龜山院・青蓮院道円親王筆

愛媛
大学
古典叢刊

27

愛媛
大学
古典叢刊
27

新古今和歌集

三
伝亀山院・青蓮院道円親王筆

第二期 刊行書目 (太字既刊)

- 15 拾遺和歌集 上 伝二条為忠・世尊寺行忠筆本
- 16 拾遺和歌集 下 伝二条為忠・世尊寺行忠筆本
- 17 大海集 上
- 18 大海集 下
- 19 景 清
- 20 長枕褥合戦・誹諧花橋集 下
- 21 古今著聞集私記
- 22 正統古事談・十訓抄私記
- 23 源氏物語 上 伝冷泉為相他筆鎌倉期古写本
- 24 源氏物語 下 伝冷泉為相他筆鎌倉期古写本
- 25 新古今和歌集 一 伝龜山院・青蓮院道円親王筆
- 26 新古今和歌集 二 伝龜山院・青蓮院道円親王筆
- 27 新古今和歌集 三 伝龜山院・青蓮院道円親王筆
- 28 針の供養
- 29 後拾遺和歌集 伝惟房筆本
- 30 住吉物語

新古今和歌集 三 伝龜山院・青蓮院道円親王筆

昭和五十七年十月十日発行

編者 中 小 路 駿 逸

刊行 愛媛大学法文学部国語国文学研究室内
愛媛大学 古典叢刊行会
松山市文京町三

印刷所 有限 青葉図書印刷部
松山市小栗六丁目三三三

発行所 790 松山市小栗六丁目三三三
青葉 図書

電話 (〇八九九) 四三一・一六五
振替 徳島 六二二〇

愛媛大学 古典叢刊 27

新古今和歌集卷第十五

恋舟よ

水無波恋舟よ首方谷小

藤原定家朝臣

一三三六

あふらん乃神のまゝし小舟もらて
もやしむる乃舟をさうもやく

藤原定家朝臣

一三三七

思ふは舟をゆらんさ乃舟は舟
たのりすまやさうの凡

前大信公意圖

舟人乃病を多しきも、舟に乗りて
うてらりすくは、病れりふ風

むきと 九近中物之衡

舟といて舟人乃病を、病れり
し、病れり多しと、病れり

右衛門善通具

舟人乃病を、病れり多しと、
病れり多しと、病れり多しと

舟人乃病を、病れり多しと、
病れり多しと、病れり多しと

舟中物言後忠

我乃... 諸... 病...

ふふ思つと一みちとらん

むちとと 藤原道信朝臣

わさりと... 君...

とれすしせわうてれ... 病

藤原元真

お明くを我が... 病と...

諸... 病...

一あて... 女... 病...

たふせと... 病...

和泉三郎

由えんとふとれ紫よりゆくに
 くらく病乃るまはをらん
 毎のあつらとわともく坊けり
 女乃いしくありてふいて坊者
 ぬま

右原長徳

かねては紫よとる病けはふふと
 病もろとや人のまふらん
 右原乃推成おつりける

しらふつぐいや祿りもま城の
小森の下柴つらうりそくち

ひー

森原推成

新れ枝や病乃今きしとくに
しらうけりて病わりのと

部ーら次 花山後法寺

しら甘く清くうつつ秋方ふ
あまらば病ふじすはくはく

いーらまはわんり

光孝の曾孫

君のせむじくたまはうらひのきりか
まゝのりなれはふかたき

あむし ちんじん

病ちりてうむし神ははれ

涙れ川乃うらせまれ

ふらけ國のわらりに結なり

女に九月つらとつうけ

源重之

いかりうれはむしきりか
あむし

思ふと結けり枯れ又言ひ
まゝとてしるべし

六條右大臣室

一三五二

かふらうくまふなるものとまはら
枯れはなほふほひい

むちと 相模

一三五二

まはら枯れ下葉とみてま
人のこゝろ乃泣く

一三五三

いもふはてはなわみま
併つて何のふん

徳徳云

人一連ね祿を承るるはくはくして
さりと申あつる祿を承るるはくはくして

光孝天皇御清平

さるるはくはくしてくはくはくして
はくはくしてくはくはくして

坂上是則

さるるはくはくしてくはくはくして
はくはくしてくはくはくして

讀人志下

おれを神にまかせたてまつる

もあまの母にあらねりて

ふもてまつりて日よきあはれ

らしてまつてまつてまつる

わすれぬまつるまつるまつる

まつるまつるまつるまつる

まつるまつるまつるまつる

まつるまつるまつるまつる

まつるまつるまつるまつる

まつるまつるまつるまつる

一三六一

いんまうんせいんしんまね

かけうんつうろくあき

いんせうわんりうせうま

いんせうわんりうせうま

一三六四

いんせうわんりうせうま

いんせうわんりうせうま

一三六五

いんせうわんりうせうま

いんせうわんりうせうま

一三六六

いんせうわんりうせうま

いんせうわんりうせうま

下71ウ

やまのり乃丹とれむゆてぐらて
たのういしやう世きりたり

君のわらわんつととらん伴物山
言ふくうあはゆらと

中足ふら丹りせら乃法りきく
あはらふくくしゆりおんまきか

言乃わはき山とりのうにの
わりとまけいといつとるなる

むつとてくふらまうり山とれ
新らりゆらん祿とるしかり

我ら一のまゝそとろく人小恋れ
いすれとや小恋とあはれまじけ

人丸

夜舟ゆくぞうあはれのつゝのまじ
はす世は行く人いよのあはれを

夏若なる恋あはれもいよとせね
まじはのうてあはれつゝあはれ

八代女

みづさすふさしれと川のけのせに
いよとあはれあはれいよと

清原深養父

一三七六

うんげんわろの神乃かろわを
まろれ下にいほやまろん

中納言家持ふつうけん

山口女王

一三七七

あへらるるるれほのまろふ

れふの志のまろふつる

まろふ乃ねりまろふ字みれ

しえてれい乃のまろふ

一三七八

むらあ

赤深衛門

心ふて見せしむるはしうる祿の
夢よりけらそ物とくねん

春儀留

らとせく祿ねむれしふ夢をて
らむけい海にたふふわらふ

伊勢

まれば乃夢ふりいれんをる
けいふみ人うあうる

盛明親王

春のね乃夢れたるはしうる